

国立天文台・天文情報センター・アーカイブ室 中桐正夫

* 大正・昭和初期の家具・文具の寄贈 (8mm 映写機など)

国立天文台と三鷹市は、国立天文台構内にあった最古の官舎1号を文化財として保存し、その有効利用についての検討を進め、三鷹市と国立天文台の協働の事業として「星と森と絵本の家」(仮称)計画を進めている。この概略は三鷹広報に下のように知らされている。工事は7月には始まると言われていた。

星と森と絵本の家(仮称) (21年7月オープン予定)

三鷹市が、国立天文台内の大正時代の家を文化財として保存・活用し、国立天文台との協働により事業を行う「星と森と絵本の家(仮称)」。来年7月のオープンに向けて進む施設整備や運営プランづくりの内容をお知らせします。
☎コミュニティ文化室(絵本館担当) ☎内線2511

管理棟
施設全体をバリアフリーに利用できるように床レベルを旧1号宿舎にそろえ、スロープや玄関、トイレなどを整備します。

旧1号宿舎
大正時代の建物を文化財として、大切に解体・再築し、現行の建築基準法に適合する安全で快適な建物にします(市の登録文化財に申請予定)。

中庭
自然の中でさまざまな活動ができるスペースとして、安全な中庭を整備します。

星(宇宙)と森(自然)と絵本の世界を実際に体験する場

多様な人々の交流と創造の場

星と森と絵本の家(仮称)は、「みたか・子どもと絵本プロジェクト」の特色ある拠点として、これまで実施してきたプロジェクトの事業の成果などを取り入れ、「天文台の森の中にある昔の家」で絵本と出会い、賑きや喜びのある豊かな体験を通して子どもたちの知的好奇心や感受性がはぐくまれるよう活動を進めます。
また、子どもから高齢者までが作り手として事業の企画や実施にかかわる中で、豊かな体験やコミュニケーションが実現できるよう、展示物の制作やボランティア養成など、さまざまな市民参加の機会を設け、具体的な活動を進めていく予定です。

この記事のなかに下記のようにこの1号官舎が建てられ、使われていた初期の大正・昭和初期の家具、文具などを寄贈してくださいと呼びかけてあった。

大正～昭和30年代の家具・文具を探しています
大正期に建てられた家にふさわしい古い家具など(昭和30年代ころ製造までのもの)を探しています。寄付を募ります(応募状況によってはお申し出をお断りする場合があります)。
申込締切 8月31日(日)

この市の広報を見て、市民の方が天文情報センターの質問電話に寄贈したいものがあると電話をかけてこられた。三鷹市のこのプロジェクト担当者の所にも何件かそのような申し出をいただき、寄贈してもらっているとの話を聞いていた。国立天文台への申し出は初めてであったが、1号官舎のプロジェクトの1員である

アーカイブ室の中桐のところへ電話が回されたので、市の方に回すのもたらいまわしのようと思われるので、お話を伺い寄贈くださるというものをいただいた。あまり古いものではないが、昭和30年代までもものならということであり、それを承知でいただいたものが下記のとおりである。

- 1) 8mm 映写機 (電源ケーブルなし)、映写機としては稼動するそうである。

- 2) 手動式 8mm 映画プロジェクター
- 3) GE テープレコーダー (電源ケーブルなし)
- 4) VICTOR 13 トランジスターラジオ (電源ケーブルなし)
- 5) 8mm 映画フィルム 15 本
 1. 南米旅行フィルム 130feet
 2. 南米旅行フィルム 140feet
 3. 南米ペルー旅行フィルム 250feet
 4. 南米ボゴタ・マハカル旅行 150feet
 5. KRAMER YAMAHA 250feet
 6. フィリピン旅行(1976 年) 150feet
 7. ハワイ島旅行 200feet
 8. 香港旅行 150feet
 9. 香港旅行 30feet
 10. メキシコ旅行 100feet
 11. ロスアンジェルス (ディズニーランド) 200feet
 12. ディズニーランド 250feet
 13. ディズニーランド(不良) 30feet
 14. ナイアガラ 90feet
 15. ブラジル旅行 30feet

これらは、国立天文台で使われていたものではないので、天文情報センター・アーカイブ室の収集品として収蔵するのは不適當と思われるが、とにかく窓口としていただいた。この号は寄贈の収納の記録として残すために書いた。

これらの扱いについては、1 号官舎 WG に検討を委ねたい。